

# VU (絶滅危惧Ⅱ類)

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

## ヒメフチトリゲンゴロウ

*Cybister rugosus* (Macleay, 1833)

カテゴリー判定基準：A-2

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	VU	VU

国内では奄美諸島以南の南西諸島に分布する大型のゲンゴロウである。開発による湿地の消失や水田の乾田化、放棄による草地化によって生息環境は減少傾向にある。また本種は大型で、愛好者による採集圧も地域的な絶滅を進行させる要因となっている可能性がある。

This species is a large diving beetle distributed in Nansei Islands below Amami Islands. The number of its habitats has been decreasing by loss of marshy areas due to development, and reformation into well-drained paddy fields and succession of fallow paddy fields. Moreover, this species is popular among insect collectors because of its large size and their collection also affects local extinction.

### 基礎情報

**■形態** 体長27~32mmで、南西諸島では近縁種フチトリゲンゴロウ *C. limbatus* に次ぐ大型種である。体下面は黒色であるが、後胸腹板および後基節の外方が広く黄色である点で、腹面の大部分が暗赤褐色であるフチトリゲンゴロウと区別が可能である。

**■分布域** 国外では中国、東南アジア、インド、アッサムから記録がある。国内では奄美諸島以南の南西諸島に分布する。

**■生息環境** 水質が良好で、水生植物の生えた池沼や水田、湿地などに生息する。

**■生活史** 繁殖期はおもに夏であるが、八重山諸島では幼虫がほぼ1年を通して見られることから、低緯度地域ほど繁殖期は長いと考えられる。そのほかについての詳細は不明である。

### 現在の生息状況

**■分布域の現況** 過去に記録がある島嶼のうち絶滅が確認された島は今のところないが、地域的な生息地の消失や個体数の減少は確実に進んでいる。

**■生息地の現況** 市街地化、農地開発、観光地

化などにより生息域はかなり縮小している。

### 存続を脅かす要因

開発による湿地の消失（15-1）、ため池のコンクリートもしくはゴムシート護岸化（12）、水田の圃場整備による乾田化（15-2）や放棄による草地化（53）により生息環境は減少傾向にある。農地への多投肥による水質汚濁（31）や農薬汚染（32）も生息域を制限する要因になっている。また本種は大型で、愛好者の採集圧による影響（41）も看過できない。

### 保護対策の現状

奄美大島では2013年10月1日より、徳之島では2014年1月24日より条例によって採集が禁止された。また、湿地環境の保全により、結果的に本種の生息地が守られている事例がある。

### 特記事項

とくになし。

#### 参考文献

森正人・北山昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京. 231pp.  
佐藤正孝, 2006. ヒメフチトリゲンゴロウ. 環境省自然環境局  
野生生物課 (編), 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物  
-レッドデータブック- 5 昆虫類, p. 136. 財団法人自然環境研究センター, 東京.

執筆者：北野忠（東海大学教養学部）・苅部治紀（神奈川県立  
生命の星・地球博物館）・中島淳（福岡県保健環境研究所）